



Flash News

〈フラッシュニュース〉

三重大学

第22号

目次

- 豊田学長からの「年頭挨拶」
- 情報関係講演会(徳島大学－教育研究者DB、熊本大学－学務情報システム)
- 目標チャレンジ活動・事務職員向け研修会を開催
- NPO「地域開発研究機構」の認可
- 社団法人国立大学協会東海・北陸地区支部会議(平成16年度第2回)が開催される

お知らせ

広報室から

- 地震防災シンポジウムと共同研究成果報告会
- 留学生との交流懇談会
- 「次世代ディスプレイ用機能材料の開発をめざして」
- 第1回「島人がもてなすウエルネスの旅」
- 「工学部特別講演会(分子素材)」を開催
- C型肝炎レシピ集「テツトルーナ」

豊田学長からの「年頭挨拶」



豊田長康学長

「法人化後1年近くが経ちましたが、大学全入時代の到来、文教予算の減少、評価に基づく予算配分、国公私立イコールフットイングの競争的教育研究資金への移行、授業料標準額の引き上げ等、ますますその厳しさを実感しています。この状況を打開するには、受け身ではなく積極的に打って出る姿勢が大切です。昨年4月に大学運営のキーワードとして3つのC【(1)大学のclientである学生、地域社会、地域の方々を第一に。(2)学内での、そして地域とのcommunicationをもっと促進。(3)地域から世界へchallengeしよう。】を提案しました。さらに今年は、新たに(4)自ら目標を明らかにし責任をもってその達成に取り組もう **commitment** を掲げました。学長・役員からのトップダウン的な戦略への取組みと教職員の方々からの自発的かつボトムアップ的なactionのバランスが、大学を大きく活性化するのではないかと期待します。」

情報関係講演会(徳島大学－教育研究者DB、熊本大学－学務情報システム)

1月14日に標記講演会が矢野米雄教授・徳島大学工学部長と宇佐川毅教授・熊本大学総合情報基盤センター長を講師に招いて講堂小ホールで開催されました。徳島大学の教育研究者データベースと、熊本大学の学務情報システムについて、苦労話をまじえた開発経緯と今後の展望について講演されました。本学との違いについては、情報戦略予算規模、組織体制の格差、本学教職員の意識差が明らかとなり、積極的な質疑応答が行われました。亀岡理事から総合情報処理センターへの全学的な支援が急務であると総括され、有意義な講演会となりました。

目標チャレンジ活動・事務職員向け研修会を開催



(財)日本科学技術連盟
藤原 淑郎 氏

1月28日、メディアホールにおいて、事務職員向けの目標チャレンジ活動スタートにあたり、部長・課長クラス対象の研修会が開催されました。講師として(財)日本科学技術連盟嘱託で民間などの業務改善活動の指導にご活躍中の藤原淑郎氏をお招きして、「業務改善活動の実践ポイントと管理者の役割」というテーマの講演をいただきました。事務組織の部長・課長・課長補佐クラスの職員約50名以上が参加して活発な質疑応答があり、今後の業務改善活動に有意義な機会となりました。

NPO「地域開発研究機構」の認可

1月13日、「地域開発研究機構」第2回総会が開催されました。フラッシュニュース19号でも紹介しましたが、本機構は、地域への貢献を目指し設立されました。今回の総会では、1月4日に県から認可が下りたことが報告され、また、今後の事業展開についても検討されました。

社団法人国立大学協会東海・北陸地区支部会議(平成16年度第2回)が開催される

1月20日に本学が当番校となり、社団法人国立大学協会東海・北陸地区支部会議(平成16年度第2回)が開催されました。協議事項「授業料標準額の値上げと対応について」他4事項について、14大学の学長より種々の意見及び情報交換が行われました。また、平成17年度予算予定額等の説明のため、文部科学省大臣官房徳永保審議官他5名の関係官が出席されました。

地震防災シンポジウムと共同研究成果報告会

12月5日、伊勢市観光文化会館にて三重県主催の地震シンポジウムが開催されました。基調講演として河田恵昭教授・京都大学防災研究所 巨大災害研究センター長の「巨大地震に備えて」が講演され、引き続きパネルディスカッションが行われ「地震防災に関する三重大の取組み」について森野捷輔副学長がパネラーとして発表しました。また、12月17日、三重県総合文化センターで、防災関連の三重県・三重大共同研究成果報告会が開催されました。高杉勲三重県防災危機管理局長および豊田学長の挨拶の後、「2004年9月5日紀伊半島南東沖地震における県民避難行動調査結果」、「2004年9月29日台風21号による災害調査報告」、「2004年10月23日新潟県中越地震における初動調査報告」、「三重県地震被害予測システム開発に関する共同研究」、「災害時要援護者の避難対策に関する共同研究」、「三重大DMPOのその他の取組み」、「三重大附属図書館における防災関連事業」等の報告がありました。2004年は様々な災害が発生したこともあり、約200名の参加者は熱心に聞き入っていました。

留学生との交流懇談会



12月15日、三翠ホールにて大学主催の留学生交流懇談会が開催されました。友好・相互理解の推進と、日頃留学生がお世話になっている留学生ホストへ謝意を表すため毎年開催されているもので、学長、理事の挨拶後、集まった友人、教員としばしの歓談が続いた後、留学生が壇上に出てショートスピーチを行う機会を設けたり、自己紹介アピール、伝統文化交流を兼ねたアトラクション等、学部を超えた留学生相互の有意義な交流の場となりました。

「次世代ディスプレイ用機能材料の開発をめざして」



12月17日-18日、三翠ホールにて、標記テーマの都市エリア産官学連携推進事業「三重・伊勢湾岸エリア」(研究総括：平松和政教授・工学部)、第1回都市エリアワークショップ (http://www.miesc.or.jp/mitac/isewangan/kenkyukai_161.htm) を応用物理学会、多元系機能材料研究会と共同で開催しました(共催：三重大SVBL)。3件の招待講演に加えて、31件のポスター講演も行われ、三重県内外の大学や研究所、企業などから120名を超える参加者が集いました。

第1回「島人がもてなすウエルネスの旅」

先に結ばれた鳥羽市との相互友好協力協定に基づき、鳥羽市の持つ「離島振興」という課題に対して、郷土料理(成田美代教授・教育学部)とウォーキングトレイル(杉田正明助教授・教育学部)の調査研究(「島の旅社」と教育学部との共同研究)と医学部との連携が加わり、標記の離島ツアー(http://www.kankomie.or.jp/m_news_member/detail.php?id=847)が12月16-18日に行われました。参加者の75%が「大変満足だった」と答え、「歩き方講習」や「糖尿病の講義」(住田安弘講師・附属病院内科、岩田加壽子・医学部栄養管理室)に高い関心が寄せられました。「新しい旅の形だ」「運動観や食事観が変わった」などの感想もあり、今後(<http://www.crc.mie-u.ac.jp/file/wellness.pdf>)を期待する声も多くありました。



カロリーを抑えた豪華なメニュー

「工学部特別講演会(分子素材)」を開催

12月17日、工学部分子素材工学科(世話人：吉岡泰規教授)では、応用化学分野におけるJABEE(<http://www.jabee.org/>)対応について標記講演会を開催しました。JABEEに深く携わっておられる伊藤卓・横浜国立大学名誉教授を招き、準備から認定後の評価までに関し講演いただきました。若手教員を含め分子素材工学科の多くの教員が聴講し、JABEEの背景、申請の準備、カリキュラムの構成、評価基準、社会の認知度など全般にわたり多くの情報を得ました。今後、分子素材工学科がいかに優秀な学生を育成していくか考える上で重要な情報となりました。

C型肝炎レシピ集「テツトルーナ」

医学部附属病院の消化器・肝臓内科(科長：足立幸彦教授・附属病院副病院長)では、C型慢性肝炎で肝臓に蓄積する鉄が炎症の進行・悪化に大きく関与することから、鉄制限食を指導しています。これは、従来から肝臓に良いとされて来たレバー、牛肉、シジミなどの摂取指導とは全く逆の考え方で、指導方針の大転換となりました。楽しく食事を体験していただく目的で、栄養部の協力を得て昨年からのレシピ集「テツトルーナ」を作成し配布したところ、患者様には非常に喜んでいただいております。既に第2集まで発行され、本年4月には合冊して書籍の発刊、更にインターネット上での公開も予定しています。



お知らせ

広報室から

広報室では、大学の法人化に際し、リニューアルした「ウェーブ三重大」と地域をターゲットとする新広報誌「三重大 X」^{エックス}を編集集中です。(2月末頃には発行の予定。)それぞれ異なる性格を持つ広報誌で、特徴的に本学のユニークな研究や人物にスポットを当て、地域の方々や高校生に紹介していく予定です。教職員の方々のますますのご協力をお願いします。なお、次号(「三重大 X」^{エックス}夏号)では「愛知万博」の特集を予定しておりますので、関連情報の提供をお待ちしております。

投稿のお願い

各種事項(大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等)に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。

亀岡孝治(vpre-info@mie-u.ac.jp)または井上真理子(mariko-i@ab.mie-u.ac.jp)まで。場合によっては、取材に向きます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大ホームページで(<http://www.mie-u.ac.jp>)ご覧いただけます。》 編集責任者/理事・副学長 渡邊悌爾